

〔第 143 回簿記検定試験問題 解答・解説〕

第 1 問

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	有価証券	180,000	現金	180,000
2	仕入	203,000	前払金	40,000
			買掛金	160,000
			現金	3,000
3	当座預金	299,600	売掛金	300,000
	支払手数料	400		
4	備品	560,000	当座預金	260,000
			未払金	300,000
5	所得税預り金	94,000	現金	94,000

1. 株式を購入した時の仕訳を問う問題である。 新版日商簿記 3 級テキスト p.98

- ・株式や公社債を購入した時は、取得原価で有価証券勘定（資産）の借方に記入する。  
 (借) 有価証券 **180,000** ←1,000 株×¥180

2. 商品の仕入取引に関する仕訳を問う問題である。 新版日商簿記 3 級テキスト p.74②、p108 前払金

- ・商品が到着した。 (借) 仕入 **200,000**
- ・引取費（当店負担）は仕入原価に加算する  
 (借) 仕入 **3,000**
- ・商品代金のうち 20%は手付金と……相殺し (貸) 前払金 **40,000**  
 ※手付金を支払ったとき、前払金勘定（資産）の借方に記入しており、ここではその前払金と相殺しとあるから、貸方が前払金となる。金額は $¥200,000 \times 20\% = ¥40,000$
- ・残額は掛けとした (貸) 買掛金 **160,000**

3. 掛代金を回収した時の仕訳を問う問題である。

- ・掛代金を回収した (貸) 売掛金 **300,000**  
 ※「得意先の掛代金」より、掛代金は売掛金であることが分かる (得意先より判断する)。
- ・振込手数料を差し引いた残額が当座預金口座に振り込まれた。なお、振込手数料は支払手数料勘定 (費用) で処理する。

(借) 当座預金 **299,600**  
 支払手数料 **400**

4. 固定資産を購入した時の仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p.102①、p107

- ・コピー複合機は備品勘定で処理する。
- ・搬入設置費用 (固定資産が使用できるようになるまでにかかった付随費用) は、固定資産の取得原価に加算する。

(借) 備品 **560,000** ← 購入代価 ¥540,000 + 付随費用 ¥20,000

- ・小切手を振り出して支払い (貸) 当座預金 **260,000**
- ・翌月以降の分割払い (後日支払い) (貸) 未払金 **300,000**

※商品代金の未払いは買掛金勘定 (負債) で処理する。未払金勘定と買掛金勘定の違いを正しく理解しておこう。

新版日商簿記 3 級テキスト p107

5. 源泉徴収所得税 (従業員から預った所得税) を税務署に納付した時の仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p109

- ・源泉徴収所得税を納付した (借) 所得税預り金 **94,000**  
 給料を支払った時の基本的な仕訳  

(借) 給料	××	(貸) 所得税預り金	××	← 源泉徴収所得税
		現 金	××	

  
 源泉徴収所得税を納付した時の仕訳  

(借) 所得税預り金	××	(貸) 現 金	××	
------------	----	---------	----	--

**第 2 問** 取引がどの補助簿に記帳されるかを問う問題である。

**【解答】**

帳簿	現金出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (得意先元帳)	仕入帳	売上帳	受取手形 記入帳	支払手形 記入帳
5	2		○	○					○
	6	○		○	○		○	○	
	16		○						○
	27		○			○			
	31		○					○	

**【解説】** 確認

- 現金出納帳      現金勘定の明細を記録するための補助簿      新版日商簿記 3 級テキスト p61  
→ 仕訳に「現金」が出てきたときこの帳簿に記録する
- 当座預金出納帳      当座預金勘定の明細を記録するための補助簿 新版日商簿記 3 級テキスト p68  
→ 仕訳に「当座預金」が出てきたときこの帳簿に記録する
- 商品有高帳      商品の受入れ、払出しおよび残高の明細を記録するための補助簿  
新版日商簿記 3 級テキスト p80  
→ 仕訳に「仕入」「売上」が出てきたときこの帳簿に記録する
- 売掛金元帳      得意先ごとの売掛金の明細を記録するための補助簿 新版日商簿記 3 級テキスト p85①  
→ 仕訳に「売掛金」が出てきたときこの帳簿に記録する
- 買掛金元帳      仕入先ごとの買掛金の明細を記録するための補助簿 新版日商簿記 3 級テキスト p85 ①  
→ 仕訳に「買掛金」が出てきたときこの帳簿に記録する
- 仕入帳      仕入取引の明細を発生順に記録するための補助簿      新版日商簿記 3 級テキスト p78  
→ 仕訳に「仕入」が出てきたときこの帳簿に記録する
- 売上帳      売上取引の明細を発生順に記録するための補助簿      新版日商簿記 3 級テキスト p79②  
→ 仕訳に「売上」が出てきたときこの帳簿に記録する
- 受取手形記入帳      手形債権の発生・消滅についての明細を記録するための補助簿  
→ 仕訳に「受取手形」が出てきたときこの帳簿に記録する
- 支払手形記入帳      手形債務の発生・消滅についての明細を記録するための補助簿  
→ 仕訳に「支払手形」が出てきたときこの帳簿に記録する 新版日商簿記 3 級テキスト p96

## 【解答の手順】

・取引を仕訳し、仕訳した勘定科目から、それぞれの補助簿を推定する。

2 日 (借) 仕 入 500,000 (貸) 当座預金 250,000  
支払手形 250,000

仕 入 → 仕入帳・商品有高帳

当座預金 → 当座預金出納帳

支払手形 → 支払手形記入帳

6 日 (借) 受取手形 300,000 (貸) 売 上 600,000  
売 掛 金 300,000  
発 送 費 5,000 現 金 5,000

受取手形 → 受取手形記入帳

売 上 → 売上帳・商品有高帳

売 掛 金 → 売掛金元帳

現 金 → 現金出納帳

16 日 (借) 支払手形 300,000 (貸) 当座預金 300,000  
支払手形 → 支払手形記入帳  
当座預金 → 当座預金出納帳

27 日 (借) 買 掛 金 400,000 (貸) 当座預金 400,000  
買 掛 金 → 買掛金元帳  
当座預金 → 当座預金出納帳

31 日 (借) 当座預金 299,500 (貸) 受取手形 300,000  
手形売却損 500  
当座預金 → 当座預金出納帳  
受取手形 → 受取手形記入帳

第3問 4月中の主要な勘定記録（一部金額を推定する）と、付記事項（主要な勘定に記録されていない取引）にもとづいて、4月1日および4月30日における残高試算表、および得意先元帳の記録を完成する問題である。

新版日商簿記3級テキスト p.134、p.138 例題 14-1

【解答】

残高試算表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
4月30日	4月1日		4月1日	4月30日
325,000	550,000	現 金		
<b>1,557,000</b>	1,600,000	当 座 預 金		
<b>650,000</b>	<b>650,000</b>	受 取 手 形		
<b>500,000</b>	<b>400,000</b>	売 掛 金		
		貸 倒 引 当 金	30,000	30,000
400,000	400,000	繰 越 商 品		
<b>80,000</b>	160,000	前 払 金		
600,000	600,000	備 品		
		備品減価償却累計額	200,000	200,000
		支 払 手 形	200,000	<b>350,000</b>
		買 掛 金	<b>300,000</b>	<b>350,000</b>
		前 受 金	220,000	<b>100,000</b>
		所 得 税 預 り 金	30,000	<b>40,000</b>
		借 入 金	1,000,000	1,000,000
		資 本 金	<b>2,000,000</b>	<b>2,000,000</b>
		売 上	5,000,000	<b>6,570,000</b>
<b>4,270,000</b>	3,250,000	仕 入		
<b>1,580,000</b>	1,200,000	給 料		

<b>65,000</b>	50,000	発 送 費		
<b>240,000</b>	180,000	支 払 家 賃		
<b>162,000</b>	120,000	通 信 費		
<b>190,000</b>	150,000	水 道 光 熱 費		
10,000	10,000	支 払 利 息		
<b>11,000</b>	10,000	手 形 売 却 損		
<b>10,640,000</b>	<b>8,980,000</b>		<b>8,980,000</b>	<b>10,640,000</b>

得意先元帳 (全て)

神奈川商店			千葉商店		
前月繰越	250,000	返 品 55,000	前月繰越	150,000	値 引 き ( <b>5,000</b> )
売り上げ	500,000	回収 (当座振込) ( <b>300,000</b> )	売り上げ	210,000	回収 (当座振込) 100,000
					回収 (約手受取) 150,000

[例] 売上勘定

売 上		仕 入	
売掛金	60,000	4 / 1	3,250,000
		当座預金	300,000
		受取手形	500,000
		売 掛 金	710,000
		前 受 金	120,000 ←付記事項イ
		現 金	40,000
		当座預金	200,000
		支払手形	250,000
		買 掛 金	490,000
		前 払 金	80,000
		買掛金	40,000

【解説】 解答の手順

1. すべての勘定記録を仕訳に置き換える。

なお、試算表を作成するときに、同じ仕訳が 2 つあると二重に計算する恐れがあるので、一方を消しておく。そのさい、例えば、下記のように①と⑩の仕訳が同じ場合、現金勘定では借方の現金を残し、相手の当座預金を削除する。同様に当座預金勘定では貸方の当座預金を残し、相手の現金を削除する。

[現金勘定]

① (借) 現金	200,000	<del>(貸) 当座預金</del>	<del>200,000</del>
② (借) 仕入	40,000	(貸) 現金	40,000
③ (借) 発送費	15,000	(貸) 現金	15,000
④ (借) 給料	370,000	(貸) 現金	370,000

[当座預金勘定]

⑤ (借) 当座預金	300,000	(貸) 売上	300,000
⑥ (借) 当座預金	(1)	<del>(貸) 受取手形</del>	<del>(1)</del>
⑦ (借) 当座預金	400,000	(貸) 売掛金	400,000
⑧ (借) 仕入	200,000	(貸) 当座預金	200,000
⑨ <del>(借) 支払手形</del>	<del>200,000</del>	(貸) 当座預金	200,000
⑩ (借) 買掛金	300,000	(貸) 当座預金	300,000
⑪ <del>(借) 現金</del>	<del>(2)</del>	(貸) 当座預金	(2)
⑫ (借) 通信費	42,000	(貸) 当座預金	42,000
⑬ (借) 水道光熱費	40,000	(貸) 当座預金	40,000
⑭ (借) 支払家賃	60,000	(貸) 当座預金	60,000

[受取手形勘定]

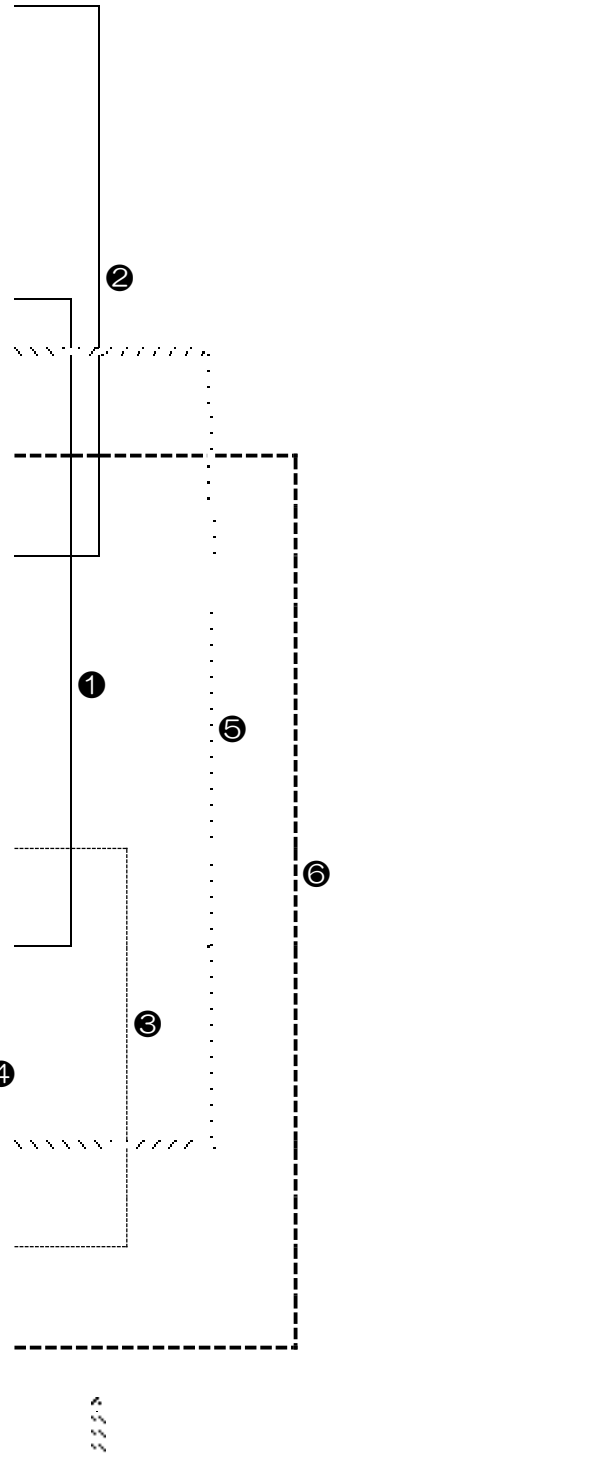
⑮ (借) 受取手形	500,000	(貸) 売上	500,000
⑯ (借) 受取手形	(3)	<del>(貸) 売掛金</del>	<del>(3)</del>
⑰ <del>(借) 当座預金</del>	<del>299,000</del>	(貸) 受取手形	299,000
⑱ (借) 手形売却損	1,000	(貸) 受取手形	1,000

[売掛金勘定]

⑲ (借) 売掛金	(4)	(貸) 売上	(4)
⑳ (借) 売上	60,000	(貸) 売掛金	60,000
㉓ (借) 当座預金	(5)	(貸) 売掛金	(5)
㉔ <del>(借) 受取手形</del>	<del>(6)</del>	(貸) 売掛金	(6)

[支払手形勘定]

㉕ (借) 支払手形	(7)	<del>(貸) 当座預金</del>	<del>(7)</del>
㉖ (借) 仕入	250,000	(貸) 支払手形	250,000
㉗ <del>(借) 買掛金</del>	<del>100,000</del>	(貸) 支払手形	100,000



[買掛金勘定]

- ⑳ (借) 買 掛 金 300,000 (貸) 当座預金 300,000  
 ㉑ (借) 買 掛 金 (8) ~~(貸) 支払手形 (8)~~  
 ㉒ (借) 買 掛 金 40,000 (貸) 仕 入 40,000  
 ㉓ (借) 仕 入 490,000 (貸) 買 掛 金 490,000

7

⋮

上記より、

- ① … ㉑と㉒は同じ仕訳であることから、(1)は¥299,000 である。  
 ② … ㉑と㉓ // (2)は¥200,000 である。  
 ③ … ㉑と㉓は同じ仕訳であるが金額は不明である。

他に資料がないか探す

得意先元帳の千葉商店貸方の回収(約手受取 150,000)から、次の仕訳が推定できる。

(借) 受取手形 150,000 (貸) 売 掛 金 150,000  
 -千葉商店-

このことから、(3) (6) は¥150,000 である。

- ④ … ㉑と同じ仕訳はない。

他に資料がないか探す

得意先元帳の神奈川商店借方の売り上げ 500,000、千葉商店借方の売り上げ 210,000 から、次の仕訳が推定できる。

(借) 売 掛 金 710,000 (貸) 売 上 710,000  
 -神奈川商店 500,000-  
 -千葉 商店 210,000-

このことから、(4) は¥710,000 である。

- ⑤ … ㉑と㉓は同じ仕訳であることから、(5)は¥400,000 である。  
 ⑥ … ㉑と㉓は // (7)は¥200,000 である。  
 ⑦ … ㉑と㉓は // (8)は¥100,000 である。

2. 付記事項を仕訳する。

ア、(借) 仕 入 80,000 (貸) 前 払 金 80,000

※仕入れに伴う手付金の相殺とは、仕入にあたり、すでに支払った手付金(前払金)を差し引いたという意味である。

イ、(借) 前 受 金 120,000 (貸) 売 上 120,000

※売り上げに伴う手付金の相殺とは、売上にあたり、すでに受け取った手付金(前受金)を差し引いたという意味である。

ウ、(借) 給 料 10,000 (貸) 所得稅預り金 10,000

3. 得意先元帳の空欄を推定する。

- ・神奈川商店貸方の返品 55,000、千葉商店貸方の値引き( )から、次の取引が推定できる。

(借) 売 上 ? (貸) 売 掛 金 ?  
 -神奈川商店 55,000-  
 -千 葉商店 ? -

この仕訳は、上記㉑の仕訳と同一取引である。したがって、千葉商店勘定貸方の( )は¥5,000 (¥60,000)



－¥55,000) である。

- ・ 神奈川商店貸方の回収 (当座振込) ( )、千葉商店貸方の回収 (当座振込) から、次の取引が推定できる。

(借) 当座預金 ? (貸) 売掛金 ?  
 ー 神奈川商店 ? ー  
 ー 千葉商店 100,000 ー

この仕訳は、上記⑦の仕訳と同一取引である。したがって、神奈川商店勘定貸方の ( ) は ¥300,000 (¥400,000－¥100,000) である。

4. 残高試算表を作成する。

- ・ 各勘定科目ごとに、4月1日の残高に上記仕訳を加減し、4月30日の残高を求める。
- ・ (例) 受取手形勘定

4月 1日残高 受取手形勘定借方の前月までの合計 2,200,000 から貸方の前月までの合計 1,900,000 を差し引いて求める。

4月 30日残高 4月1日残高 ⑮ ⑯ ⑰ ⑱  
 ¥300,000 + ¥500,000 + ¥150,000 - ¥299,000 - ¥1,000 = ¥650,000

(例) 仕入勘定

4月 30日残高 4月1日残高 ② ⑧ ⑳ ㉑ ㉒  
 ¥3,250,000 + ¥40,000 + ¥200,000 + ¥250,000 - ¥40,000 + ¥490,000  
 付記事項ア  
 + ¥80,000 = ¥4,270,000

- ・ 資本金勘定は4月1日の残高の借方合計から貸方合計を差し引いて求める。

【参考】次のように解いても良い。

1. 4月中の主要な勘定記録の?部分の金額を推定する。

① 当座預金勘定の借方の?について

相手勘定科目が受取手形であることから、次の取引が推定できる

(借) 当座預金 ? (貸) 受取手形 ?

↓

受取手形勘定貸方の当座預金 299,000 が同一取引である。

このことから、当座預金勘定借方の?は ¥299,000 である。

② 当座預金勘定の貸方の?について

相手勘定科目が現金であることから、次の取引が推定できる

(借) 現金 ? (貸) 当座預金 ?

↓

現金勘定借方の当座預金 200,000 が同一取引である。

このことから、当座預金勘定貸方の?は ¥200,000 である。

③ 受取手形勘定の借方の?について

相手勘定科目が売掛金であることから、次の取引が推定できる

(借) 受取手形 ? (貸) 売掛金 ?

↓

売掛金勘定貸方の受取手形 ? が同一取引である。

しかし、金額が確定しない。

↓ 他に資料がないか探す

得意先元帳の千葉商店貸方の回収 (約手受取 150,000) から、次の仕訳が推定できる。

↓

(借) 受取手形 150,000 (貸) 売掛金 150,000  
 -千葉商店-

↓

このことから、受取手形勘定借方と売掛金勘定貸方の ? は ¥150,000 である。

④ 売掛金勘定の借方の ? について

相手勘定科目が売上であることから、次の取引が推定できる

(借) 売掛金 ? (貸) 売 上 ?

↓

主要な勘定記録に売上勘定がないので、金額が確定しない。

↓ 他に資料がないか探します

得意先元帳の神奈川商店借方の売り上げ 500,000、千葉商店借方の売り上げ 210,000 から、次の仕訳が推定できる。

↓

(借) 売掛金 710,000 (貸) 売 上 710,000  
 -神奈川商店 500,000-  
 -千葉商店 210,000-

↓

このことから、売掛金勘定借方の ? は ¥710,000 である。

⑤ 売掛金勘定の貸方の ? について

相手勘定科目が当座預金であることから、次の取引が推定できる

(借) 当座預金 ? (貸) 売掛金 ?

↓

当座預金勘定借方の売掛金 400,000 が同一取引である。

このことから、売掛金勘定貸方の ? は ¥400,000 である。

⑥ 支払手形勘定の借方の ? について

相手勘定科目が当座預金であることから、次の取引が推定できる

(借) 支払手形 ? (貸) 当座預金 ?

↓

当座預金勘定貸方の支払手形 200,000 が同一取引である。

このことから、支払手形勘定借方の ? は ¥200,000 である。

⑦ 買掛金勘定の借方の ? について

相手勘定科目が支払手形であることから、次の取引が推定できる

(借) 買掛金 ? (貸) 支払手形 ?



支払手形勘定貸方の買掛金 100,000が同一取引である。

このことから、買掛金勘定借方の?は¥100,000である。

2. 付記事項を仕訳する。(略)
3. 得意先元帳の空欄を推定する。(略)
4. 残高試算表を作成する。
  - ・勘定記録のある項目(現金勘定ほか5つ)については、勘定記録に付記事項の仕訳を加減して残高を求める。

[例] 受取手形勘定

受取手形

前月までの合計 2,200,000 <sup>①</sup>	前月までの合計 1,900,000 <sup>②</sup>
売 上 500,000	当 座 預 金 299,000
売 掛 金 150,000	手形売却損 1,000
	} ¥650,000 (借方残高)

4月 1日残高 … ¥2,200,000 (①) - ¥1,900,000 (②) = ¥300,000 (借方残高)

30日残高 … ¥2,850,000 - ¥2,200,000 = ¥650,000 (借方残高)

- ・勘定記録のない項目(例えば、売上勘定、仕入勘定、通信費勘定など)を集計するときは、勘定の借方に記入されているものは貸方になり、勘定の貸方に記入されているものは借方になることに注意する。

[例] 仕入勘定

仕 入

4 / 1 残高 3,250,000	買掛金勘定より 40,000
現金勘定より 40,000	} ¥4,270,000
当座預金勘定より 200,000	
支払手形勘定より 250,000	
買掛金勘定より 490,000	
付記事項ア 80,000	

- ・資本金勘定は4月1日の残高の借方合計から貸方合計を差し引いて求める。

第 4 問 伝票の空欄を完成させる問題である。

【解答】

(ア)	買掛金	(イ)	40,000	(ウ)	仕入
(エ)	買掛金	(オ)	30,000	(カ)	300,000
(キ)	売上	(ク)	300,000		

【解説】

**確認** 一部振替取引（一部現金取引ともいう）については2つの起票法がある。新版日商簿記3級テキスト p.128

- ① 現金取引と振替取引に分けて起票する方法
- ② いったん全額を掛け取引（振替取引）として起票し、そのあとで入金取引または出金取引があったとみなして起票する方法

(1) 取引を仕訳する

(借) 仕入 140,000 (貸) 現金 40,000  
買掛金 100,000

この取引は一部振替取引である。そこで、上記どちらの方法で起票するかになる。

① の方法で起票すると次のようになる

(借) 仕入 40,000 (貸) 現金 40,000 … 出金伝票に起票  
(借) 仕入 100,000 (貸) 売上 100,000 … 振替伝票に起票

② の方法で起票すると次のようになる

(借) 仕入 140,000 (貸) 買掛金 140,000 … 振替伝票に起票  
(借) 買掛金 40,000 (貸) 現金 40,000 … 出金伝票に起票

伝票を見ると、振替伝票の金額が¥140,000 記入されていることから、②の方法での起票が答えとなる。

出金伝票		振替伝票			
科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
(ア 買掛金)	(イ 40,000)	(ウ 仕入)	140,000	(エ 買掛金)	140,000

(2) 取引を仕訳する

(借) 現金 30,000 (貸) 売上 330,000  
売掛金 300,000

この取引は一部現金取引である。そこで、上記どちらの方法で起票するかになる。

① の方法で起票すると次のようになる

(借) 現金 30,000 (貸) 売上 30,000 … 入金伝票に起票

(借) 売掛金 300,000 (貸) 売上 300,000 … 振替伝票に起票

② の方法で起票すると次のようになる

(借) 売掛金 330,000 (貸) 売上 330,000 … 振替伝票に起票

(借) 現金 30,000 (貸) 売掛金 30,000 … 入金伝票に起票

伝票を見ると、入金伝票の科目が「売上」と記入されていることから、①の方法での起票が答えとなる。

入金伝票		振替伝票			
科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	(才 <b>30,000</b> )	売掛金	(カ <b>300,000</b> )	(キ売上)	(ク <b>300,000</b> )

## 第 5 問 精算表を作成する問題である。

【解答】

## 精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	56,000						56,000	
現 金 過 不 足	3,000			3,000				
当 座 預 金	349,000						349,000	
受 取 手 形	76,000						76,000	
売 掛 金	114,000		20,000				134,000	
仮 払 金	250,000			250,000				
繰 越 商 品	41,000		38,000	41,000			38,000	
貸 付 金	400,000						400,000	
建 物	1,800,000						1,800,000	
備 品	200,000		250,000				450,000	
土 地	1,360,000						1,360,000	
支 払 手 形		74,000						74,000
買 掛 金		109,000						109,000
前 受 金		24,000		20,000				44,000
貸 倒 引 当 金		2,000		6,400				8,400
建物減価償却累計額		486,000		54,000				540,000
備品減価償却累計額		120,000		52,500				172,500
資 本 金		3,400,000						3,400,000
売 上		1,286,000				1,286,000		
仕 入	650,000			650,000				

給 料	168,000				168,000		
通 信 費	12,000		2,000		14,000		
消 耗 品 費	6,000			1,000	5,000		
保 険 料	16,000			4,000	12,000		
	5,501,000	5,501,000					
雑 ( 損 )			1,000		1,000		
売 上 原 価			41,000	38,000	653,000		
			650,000				
貸 倒 引 当 金 繰 入			6,400		6,400		
減 価 償 却 費			106,500		106,500		
消 耗 品			1,000				1,000
( 前 払 ) 保 険 料			4,000				4,000
( 未 収 ) 利 息			2,000				2,000
受 取 利 息				2,000		2,000	
当 期 純 ( 利 益 )					322,100		322,100
			1,121,900	1,121,900	1,288,000	1,288,000	4,670,000
							4,670,000

【解説】

[決算日に判明した事項]

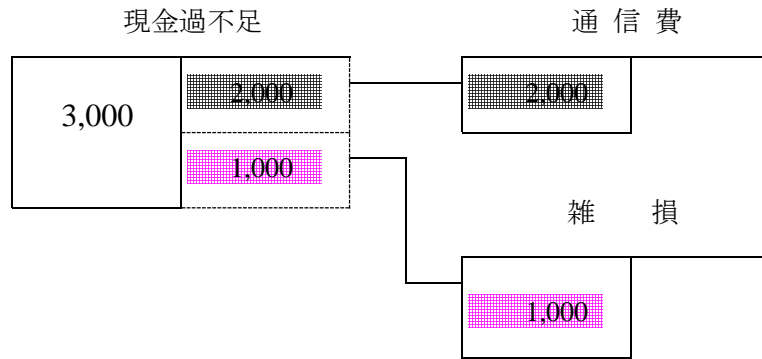
(1) 現金過不足の処理

新版日商簿記3級テキスト p.169

(借) 通信費 2,000 (貸) 現金過不足 3,000  
 雑 費 1,000

※・現金過不足の原因が判明しないとき、現金過不足勘定から該当する勘定に振り替える。

- ・ここでは、通信費¥2,000の記帳もれが判明したが、残額は不明となったので、現金過不足勘定の借方¥3,000のうち、¥2,000を通信費勘定に振り替え、残額¥1,000を雑損勘定に振り替える。



(2) 誤記入の判明—訂正仕訳

新版日商簿記 3 級テキスト p.122

(借) 売掛金 20,000 (貸) 現金 20,000

現金 20,000 前受金 20,000

又は (借) 売掛金 20,000 (貸) 前受金 20,000

※ 〈誤って行われた仕訳〉 (借) 現金 20,000 (貸) 売掛金 20,000 …①

〈上記仕訳を取り消す仕訳〉 (借) 売掛金 20,000 (貸) 現金 20,000 …②

〈正しい仕訳〉 (借) 現金 20,000 (貸) 前受金 20,000 …③

②・③が答えになる。

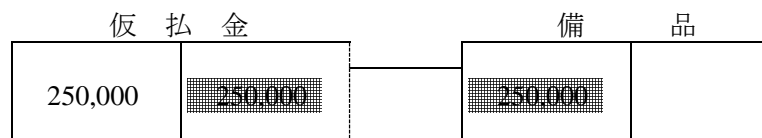
(3) 仮払金の処理

新版日商簿記 3 級テキスト p.111

(借) 備品 250,000 (貸) 仮払金 250,000

※現金過不足勘定や仮払金勘定は仮勘定といい、決算日までに該当する勘定へ振り替える。

ここでは、仮払金は備品の購入金額であることが判明したので、仮払金勘定から備品勘定へ振り替える。



[決算整理事項]

(1) 売上原価の計算

新版日商簿記 3 級テキスト p.147②

売上原価は売上原価の行で計算することという文言に注意する。

(借) 売上原価 41,000 (貸) 繰越商品 41,000 … ①

※ 期首商品棚卸高 (試算表の繰越商品 41,000) を繰越商品勘定から売上原価勘定に振り替える。

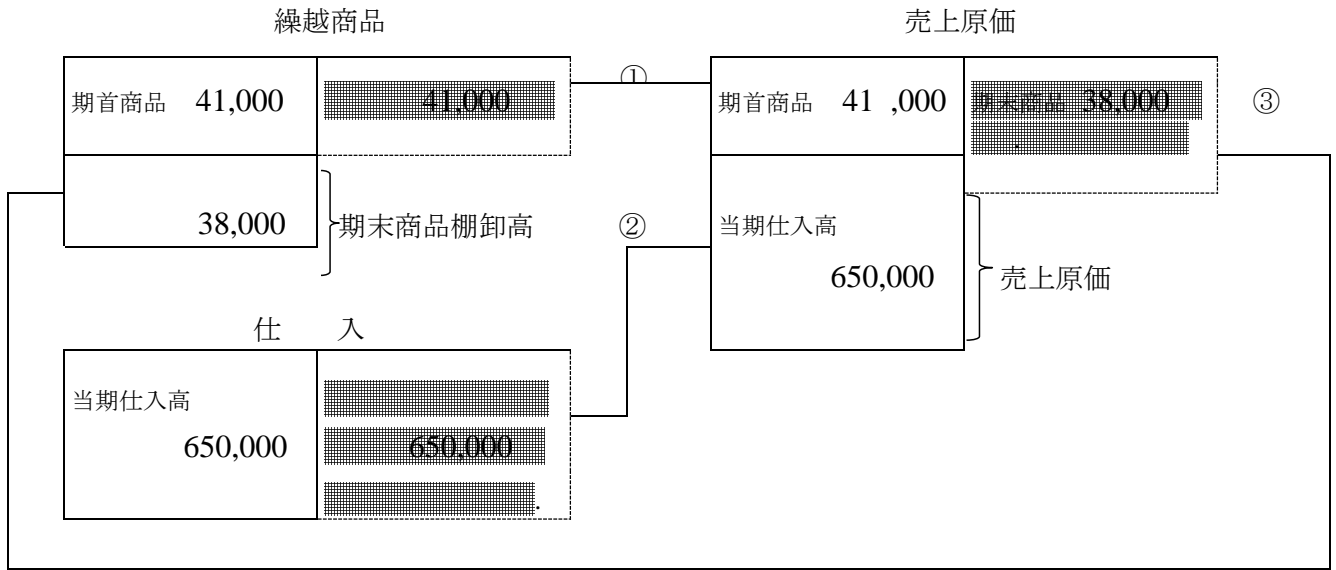
(借) 売上原価 650,000 (貸) 仕 入 650,000 … ②

※ 当期商品仕入高 (試算表の仕入勘定 650,000) を仕入勘定から売上原価勘定に振り替える。

(借) 繰越商品 38,000 (貸) 売上原価 38,000 … ③

※ 期末商品棚卸高 (問題文に記入されている) を売上原価勘定から仕入勘定へ振り替える。





(2) 貸倒引当金の設定

新版日商簿記 3 級テキスト p.148

(借) 貸倒引当金繰入 6,400 (貸) 貸倒引当金 6,400

—費用—

—受取手形・売掛金の評価勘定—

※ 貸倒引当金繰入額

受取手形期末残高 ¥76,000 ( ¥76,000 )

残高試算表

売掛金期末残高 ¥134,000 ( ¥114,000 + ¥20,000 )

残高試算表

決算日に判明した事項 (2)

貸倒引当金繰入額  $(\cancel{¥76,000} + \cancel{¥134,000}) \times 4\% - ¥2,000 = ¥6,400$

受取手形

売掛金

貸倒引当金残高 (残高試算表)

新版日商簿記 3 級テキスト p.152

(3) 減価償却費の計上 (定額法)

(借) 減価償却費 106,500 (貸) 建物減価償却累計額 54,000  
 -費用- 備品減価償却累計額 52,500

※減価償却費の計算 (定額法)

**建 物**

$$\frac{\text{取得原価} \quad \text{残 存 価 額}}{\text{耐用年数}} = \frac{\text{¥1,800,000} - (\text{¥1,800,000} \times 10\%)}{30 \text{ 年}} = \text{¥54,000}$$

又は次のように求めても良い  $\frac{\text{取得原価}}{\text{耐用年数}} \times 0.9 = \frac{\text{¥1,800,000}}{30 \text{ 年}} \times 0.9 = \text{¥54,000}$

**備 品**

〈旧備品〉	取得原価	取得原価	耐用年数
	¥200,000	¥250,000	3 か月 (10 月~12 月)
	= ¥40,000	×	= ¥12,500
	5 年	5 年	12 か月
	耐用年数	耐用年数	



残存価額は 0 (ゼロ) とあるので、取得原価を耐用年数で割って計算する。

(4) 消耗品費勘定の整理

新版日商簿記 3 級テキスト p.162

(借) 消耗品 1,000 (貸) 消耗品費 1,000  
 -資産- -費用-

**確認** 消耗品については次の二つの会計処理法がある。

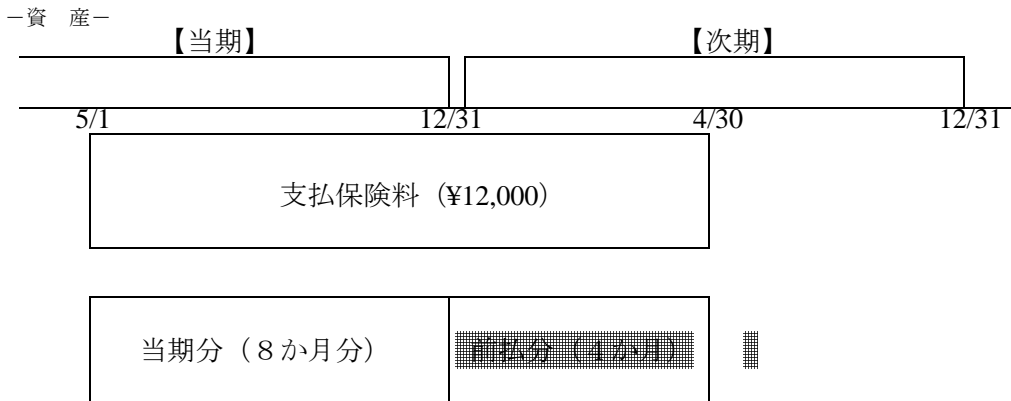
	購入したとき消耗品費勘定で処理する方法	購入したとき消耗品勘定で処理する方法
購 入 時	消耗品費 ×× 現金預金 ×× -費用-	消 耗 品 ×× 現金預金 ×× -資産-
決 算 日	 ↓ 消 耗 品 ×× 消耗品費 ×× -資産-	 ↓ 消耗品費 ×× 消 耗 品 ×× -費用-

※この問題では、残高試算表に消耗品費勘定があることから、購入したとき消耗品費勘定 (費用) で処理していることがわかる。そこで、未使用高を消耗品費勘定から消耗品勘定 (資産) に振り替える。

(5) 前払保険料の計上

新版日商簿記 3 級テキスト p.160①

(借) 前払保険料 4,000 (貸) 保険料 4,000



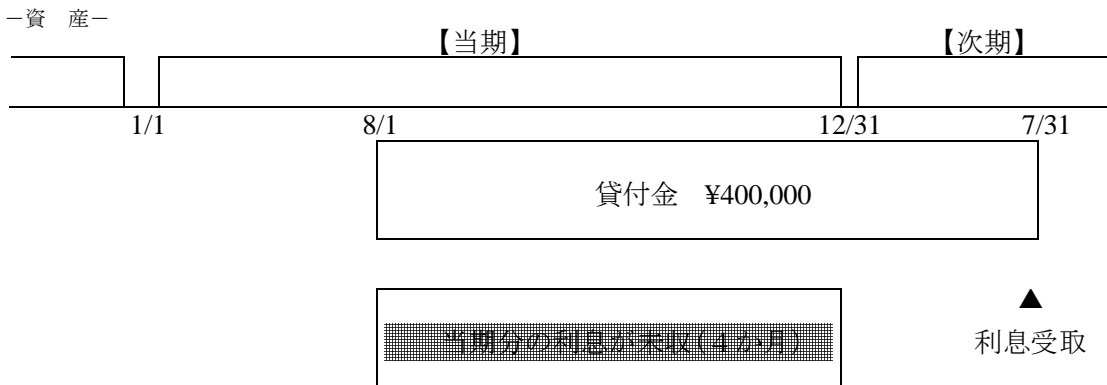
※当期に支払保険料が¥16,000 記帳されているが、そのうちの¥12,000 については、当期分は 8 か月分であり、残り 4 か月分が前払いになる。  
 そこで、前払分を当期の保険料から差し引くとともに、次期に繰り延べるために前払保険料という資産の勘定に振り替える。

$$\text{前払保険料} \quad ¥12,000 \times \frac{4 \text{ か月 (前払分)}}{12 \text{ か月}} = ¥4,000$$

(6) 未収利息の計上

新版日商簿記 3 級テキスト p.167

(借) 未収利息 2,000 (貸) 受取利息 2,000



※8月から資金を貸しているので、8月から12月までの利息は発生している。  
 しかし、利息は次期の7月末に一括受け取ることになっているので、当期分の利息は発生しているけど、受け取ってはいない。つまり未収利息が発生しているのである。  
 そこで、利息の未収分を受取利息勘定に記入するとともに、未収利息勘定（資産）に記入して次期に繰り越す。

$$\text{未収利息の計算} \quad ¥400,000 \times 0.012 \times \frac{5 \text{ か月 (8 月～12 月)}}{12 \text{ ヶ月}} = ¥2,000$$

— 精算表を作成する —

1. 勘定科目ごとに、残高試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減し、その結果を損益計算書欄または貸借対照表欄に記入する。そのさい以下のことに注意する。

(1) 金額を加減するとき、貸借同じ側にある金額は加算し、反対側にある金額は減算する。

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	41,000 ①		38,000 ②	41,000 ③			38,000 ④	

※ ①と同じ借方にある②は加算し、反対側にある③は減算する。

(2) 資産・負債・純資産の各勘定の金額は貸借対照表欄に移記し、収益・費用の各勘定の金額は損益計算書欄に移記する。

2. 精算表を作成するにあたって次の勘定科目が何の勘定か間違えないようにする。

消耗品・前払保険料・未収利息 … 資産  
 売上原価・貸倒引当金繰入・減価償却費 … 費用

※ 貸倒引当金勘定は売掛金および受取手形の評価勘定であり、減価償却累計額は備品の評価勘定である。精算表を作成するときはいずれも負債の側に記載する。

3. 損益計算書欄および貸借対照表欄の借方・貸方の金額をそれぞれ合計し、その差額を当期純損益の行のそれぞれ金額の少ない側に記入する。なお、

(1) P/L (損益計算書) の借方と B/S (貸借対照表) の貸方に差額を記入したときは、差額を記入したと同じ行の勘定科目欄に「当期純利益」と記入する。もし、P/L の貸方と B/S の借方に差額を記入したときは当期純損失となる。

(2) 各欄の借方・貸方の金額を合計し、合計金額を記入する。